

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

一六一

あふさき月の桂の影は千里の秋の中

斎藤

雲香もさきよをたれてすむ影の千と思を雲のよの月

斎藤

元晴て思を光や月影の月をて名もたふ今宵ぬらん

日暮

名もたふ今宵の月影をけきいふよの秋の中

斎藤

名もたふ秋の雲中の月影を光もみつる影のくもたふ

斎藤

名もたふ光をばもよの秋の中

斎藤

名もたふ今宵の月影をけきいふよの秋の中

斎藤

名もたふ今宵の月影をけきいふよの秋の中

斎藤

一六二

天保四年八月十日 桂月不即與すの旨

目玉成海邦之ゆ

十六夜月 老の身はかばして一は各ふし秋の月の桂の花の影をば

六三

向山侍 昔より秋風をみ待向ふ山原すみて月よあを